

監事退任のあいさつ

山本 英明



平成21年より6年間監事を務めさせていただきました。未熟な監事でありましたが、私にとって貴重な体験でした、感謝申し上げます。

本会における監事の職務は、理事会では審議・議決権が無く、審議が難航したときに稀に意見を求められることと、審議終了後の公評を求められたときが、発言を許される時であります。就任当初、私はこのような監事の役回りに戸惑いを感じて悩み、その立ち位置を模索しておりました。

そんな折、お二人の歴代幹事のご活躍を通して私なりの監事に臨む基柱を見付けることができました。そのころの思い出です。

お一人は、20数年前（会長：水鳥好和先生）、私が常任理事をさせていただいたときの竹下亨監事です。先生は理事会でお会いする度に私に声を掛けてくださいました。私は会誌の編集を任されておりましたが、準備不足による発行遅延や誌面作りが巧く行かず窮地に陥ったときには激励のお言葉を、たまたま特集記事が好評を博したときにはお褒めの言葉を掛けてくださいました。

もうお一方は、私の前任者の小酒井安二氏です。氏の厳しさは当時の関係者からたびたび伺うことができました。特に会計監査においては、本会の資金源は会員からの会費であることから、その関係帳簿類の照合のときなど、立ち会われた理事の方々は背筋が凍り付く思いだったとのことでした。

このように両氏から学んだ『励まし』と『厳しさ』は、上述した戸惑いを払拭し『やる気と元気』の源になりました。ご両人には大変に感謝申し上げます。

さて、私は、小川清前会長から田中宏現会長へとお二人の会長をまたいで監事を務めさせていただきました。ちょうど本会は、公益社団法人格の獲得、学術大会の大規模開催への試み、フレッシューズセミナー、各種専門技術の講習会開催・認定試験の実施、更には高校に出向いての放射線教育への参画など、他県に先駆けた新規事業に次から次へと取り組んで、独創性アイデアと緻密な戦略を兼ね備えた時期でありました。このように本会が繁栄を迎えたときに技師会役員の一員として苦労や達成感を共有できたことは誠に感謝の念に堪えません。

私は、昨年度、32年間勤務しました埼玉県立小児医療センターを定年退職いたしました。現在は、縁あって東京電子専門学校で教員をしております。診療放射線技師の仕事に憧れて入学してきた1年生の担任として学生たちと向かい合うと、どうしても肩に力が入ってしまいます。おそらく私のクラスの誰よりも、今は私が一番勉強しているのではないのでしょうか。還暦過ぎの手習いです \ (^ o ^) / 笑

これからは学生さんたちの若いエネルギーをわけてもらいながら、本会の発展を後方から応援させていただきます。

埼玉県診療放射線技師会の更なる発展を祈念して監事退任のあいさつとさせていただきます。